

式 辞

春の息吹が感じられる今日の良き日に、多数のご来賓の皆様、ご家族の皆様のご臨席を賜り、富谷高等学校第二十八回卒業式を盛大に挙行できますことは、私たち教職員にとつてこの上ない喜びであります。

ただ今、卒業証書を授与した卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

本日まで卒業生を見守ってこられたご家族の皆様には、たくましく成長した姿を前にして、感慨もひとしおのことと存じます。

さて、卒業生の皆さん、皆さんが期待と不安を胸に本校に入学してから三年の月日が過ぎました。皆さんは、本校で学び、体験した、あの日あのとときのことを、懐かしく思い起こしているのではないでしょうか。

私が皆さんと出会った四月の始業式では、マスク姿で挨拶しました。その後、マスク着用は強制や推奨ではなく、個人の判断となり現在に至ります。

皆さんは、新型コロナウイルス感染症の影響により、日常生活に大きな制約を受ける中で生活してきました。とても大変だったと思います。

ようやくやく落ち着きを取り戻し、コロナ対応が緩やかになったこの一年、これまで皆さんが、大切に大切に秘めていたエネルギーをパワーに変えて、工夫しながら充実した高校生

活を送ってくれたことをうれしく思います。今回猛威を振るった新型コロナウイルスは、二十一世紀に入って、SARS、新型コロナウイルス、インフルエンザ、MERSに続く、四度目のパンデミックです。このことは、今後、私たちが生きていく上で、数年おきに世界的なパンデミックが起こる可能性があることを示しています。そして、残念ながらそれに備える「正解」はありません。いつ、どこで、どれくらい規模で、どのような症状を引き起こす感染症になるのかは予測できません。この感染症に限らず、私たちが生きているこの社会では、正しい答えが存在しない問題に直面することが度々あります。また、一つの問いに対して、二つも三つも異なる答えが存在したりすることもあります。では、そのようなとき、どうすればいいのでしょうか。

私は、人と人との良質なコミュニケーションがブレイクスルーのポイントになると思います。ここで言うコミュニケーションとは、相手に自分の考えをうまく伝える技術ではありません。考え方が異なり、意見が対立している人と人との緊張関係を緩和して、対話的環境に導く能力のことです。その貴重な能力を身につけ、近い将来のキーパーソンになるのが、本校で学んだ皆さんです。

「収穫祭」での皆さんの発表がみごとだったと断言できるのは、昨年四月に開催された

からです。各分野で選出された代表グループの発表は本当にすばらしかったです。あそこまでまとめあげるには、相当の苦勞があったことでしょう。

課題を見つけ、問いを立て、その解決策を提案するという学習過程の中で、たとえ仲の良い友達同士とは言え、お互いの意見が対立することもあるはず。

そのような状況に陥ったときの皆さんは、お互いを尊重しつつ、どうすれば合意形成できるのか、悩みながらも、こつこつと、粘り強く、折り合いをつける努力を怠らなかつたことだと思えます。そのことが十分伝わる発表内容でした。

「それはあなたの感想にすぎないですよね」と言ってコミュニケーションを閉ざしてしまいうやり方とは対極にある営みだと私は思います。

そのようなコミュニケーション能力に優れた皆さんは、この一年間、私にもよく話しかけてくれました。その中のひとり、先日わざわざあいさつをしに校長室を訪ねてくれました。いつもどおりたわいもない話をする中で、彼は「将来、人の役に立つ仕事、人を救う仕事をした」と目標を語ってくれました。

さらに、世界的に悲惨な戦争が終わらない状況に心を痛め、国と国との対立を防ぐために、いいっそのこと世界が一つの国になったらいいのでは、と少し恥ずかしそうに話してくれました。ほとんど実現可能性のない、夢物

てくれた彼からは、先生の話は長いからせめて十分以内にしてほしいとリクエストされていきました。なんとか今回はそれに応えられそうです。

それでは結びに、富谷高校で学んだ皆さんのような人が、これから社会では重要なことです。遠慮せず活躍してくださいね、ということを強調しておきます。

そして、卒業生の皆さんの前途を祝福するとともに、ご来賓の皆様、ご家族の皆様、ごまますの、ご健勝をご祈念申し上げ、式辞といたします。

令和六年三月一日

宮城県富谷高等学校
校長 田淵 龍二